



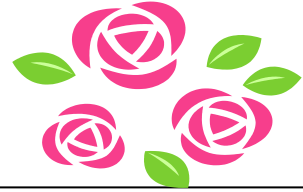
ふるさと黒木

八女市立黒木小学校
文責 校長 秋山茂

令和4年5月18日

【重点目標】「話をよく『きいて』、自分の考えをつくる子どもの育成」

ねんせい じるき さんか
6年生が「だご汁忌」に参加しました。



黒木町を愛し、だご汁が大好きだった作曲家「團伊玖磨」先生が亡くなられて、今年で21年目になるそうです。團先生と親交が深かった黒木町文化連盟元会長 吉村誠さんの発起で「だご汁忌」を團先生の命日である5月17日に行われています。毎年、6年生は、「だご汁の歌」を披露していました。しかし、新型コロナウイルス感染症のまん延防止により、数年中止となっていました。今年はずけんの中、歌声を響かせることができました。来賓のあいさつの中で、世界的作曲家がなぜ、黒木町に来られていたのか、だご汁の歌を作曲されたかなど聞くことができました。



【だご汁の歌】

作詞 今村園彦 作曲 團伊玖磨

- 1 いりこ じゃがいも 夏豆 かぼちゃ
鼻をくすぐる味噌の香は
幼い頃の夢の味 幼い頃の夢の味
- 2 くどで まきくべ 火吹竹吹いて
作ってくれた だご汁は
今はなつかし母の味 今はなつかし母の味

團伊玖磨先生 プロフィール

戦後の日本で、オペラから童謡にいたるさまざまな音楽を書いた作曲家。
作品：「ぞうさん」「おつかいありさん」「夕鶴」「筑後川」「京都府の歌」「佐賀県民の歌」等



巨大な藤は、その一年間、ぎりぎり一杯に蓄えたエネルギーを、一時に迸らせたかのように、数十米四方に、花を花を溢れさせていた。大きな株から伸びた龍のような大枝は、節くれ立ち、苔を付けた。神社の境内一杯の藤棚に花の房を下げる一方、神社と矢部川の間を通っている道路の上に作られた相対距離の間の鉄骨の棚をも花で覆っていた。それは、まさに薄紫の饗宴だった。藤棚の下には、緑が出て、子供達が遊び、其處此處に花を敷いて酒を酌み交している大人達も居た。

一九六九 バイブのけむりより
團伊玖磨
日本芸術院会員 作曲家
(一九二四—二〇〇二)